

「偽腐」の使われ方に見る 中国人腐女子のゲイ意識

本稿では「偽腐」という言葉の使われ方を手掛かりに、中国人腐女子のゲイ意識を探ることを目的とする。中国の腐女子の間で多く使われる「偽腐」という言葉は、2009年ごろに現れた中国独自の造語で、文字通り「偽物の腐女子」という意味である。

「偽腐」という言葉の出現当時の意味としては、耽美（BLを指す中国の用語）が流行っているというので、流行りに乗って「腐女子」と自称するにわか腐女子のことを指していた。また、この言葉は、一般男性に「あなたもゲイになりなよ」と勧誘したり、ゲイのプライバシーを侵害したり、他人に迷惑行為をする腐女子を非難する際にも使用される。そしてなにより、中国で「偽腐」という言葉が使われる時には、「現実のゲイに対する理解があるか否か」ということも強く意識されているように見える。

一方、日本では、現実のゲイ男性に対して理解を示さない人を、腐女子の間で「偽物の腐女子」と言うような現象は見られない。また、1990年代の初めにゲイ男性がやおいファンの女性たちを非難した「やおい論争」などもあり、日本では、現実のゲイ男性とBLファンの関係性は分断されていると思われる。

こうしたことから、中国において「偽腐」という言葉がどのように使われているのかを探ることで、日本とは異なる中国人腐女子のゲイ意識に迫ることができるのではないかと考えている。

以上のことを踏まえ、本研究では、次の仮説を立てた。

①中国における「偽腐」という言葉は、単に古参の腐女子がにわか腐女子をののしる言葉というより、現実のゲイに対する腐女子の理解や、現実のゲイに迷惑をかけないような行動の節度を求めるものとして使われているのではないか。

②最初は「にわか腐女子」としてコミュニティに参入しても、古参の腐女子から、現実のゲイに対する考え方やふるまいについて非難され、指導されることで、新参者でも現実のゲイに対する態度を意識し始め、やがて現実のゲイに対する理解者に成長するという可能性もあるのではないか。

仮説を明らかにするために、本稿はまず、中国の耽美文化について整理した。紙媒体の規制が厳しい中国では、耽美文化はインターネットを中心に発展してきた。そのため腐女子コミュニティもほとんどインターネット上で交流が行われてきた。腐女子はもともと「桑桑学院」や「露西亜倶楽部」のような秘匿性の高い耽美専門サイトに集中していたが、2007年からの政府のインターネット規制により、それらの耽美サイトはダメージを受け徐々に衰退した。その代わりに腐女子の議論の場は、半公開的な電子掲示板である「百度貼吧」の腐女子向けフォーラムに移るようになった。

その代表である「腐女子吧」のユーザーは、2008年の2000人規模から2020年の467万人にまで激増した。それと同時に、腐女子層の低年齢化が進み、これらの腐女子による迷惑行為が目立つようになり、深刻な問題となった。そうした状況下で、「偽腐」という言葉は、まず「百度貼吧」の腐女子フォーラム（腐女子吧）に、2009年頃から登場する。

「偽腐」という言葉が登場した当時は、迷惑行為をする腐女子を注意するために使われる言葉でもあり、同時に、「腐女子はゲイの支持者である」ということも提唱していたこと

が、本研究の「腐女子吧」の調査によって明らかになった。

本稿では、「偽腐」にそのような解釈が含まれるようになった過程、また「偽腐」という言葉がどの程度、実際に「ゲイへの無理解」という意味で理解されているのか、登場時から現在に至るまで、その解釈に変化はあったのか、を明らかにすることをめざした。

本論では、まず「偽腐」の定義のウェブ百科事典「百度百科」における変遷を整理し、次に「腐女子吧」・「晋江文学城」・「知乎」という代表的な3つのプラットフォームの「偽腐」関連の議論を考察した。最後に、考察を検証するために、この間の中国の腐女子の交流活動の中心人物であった2人の当事者にインタビューを行った。

まず、「百度百科」における語の定義等の変遷の整理では、「ゲイへの無理解」という解釈は2009年の新語登録の時から存在し、しかもそのニュアンスが徐々に強まっていったことが明らかになった。しかし、2015年に一転して、「偽腐」の定義は「理性的ではない腐女子」に簡略化され、激しい編集合戦を経て、やがては「ゲイへの無理解」という言葉も説明文から削除されることとなった事実が確認された。

一方、腐女子について中国を代表する3つのプラットフォーム「腐女子吧」・「晋江文学城」・「知乎」における「偽腐」議論を詳しく検討したところ、どのプラットフォームでも、「ゲイへの無理解」というニュアンスが非常に強いことが明らかになった。迷惑行為をする腐女子を注意するための言葉として生まれた「偽腐」は、現在に至るまでの実際の使われ方として、「ゲイに対して無理解である」というニュアンスが強かったのである。

そして、最後のインタビューで明らかになったのが、中国の腐女子サイトは、最初にコミュニティを形成する時から、ゲイと深く関わっていたという事実である。中国初の耽美専門サイトである「露西亜倶楽部」の創立者の一人はゲイであり、中国最大の腐女子サイト「腐女子吧」の管理者の中にもゲイがいた。そうしたこともかかわって、腐女子ファンドムの管理者たちはゲイ支持の態度を取り、迷惑行為を働く年若い腐女子たちに対して「偽腐」という言葉が使われるようになった時期に、「偽腐」という言葉で諷められる内容を詳しく定義することで、ゲイを理解・尊重しようといった環境を作り出した。そして、彼らの努力のおかげで、時には「百度百科の定義の書き換え」という形で強すぎるポリテュカル・コレクトネスへの反感も表出したとしても、中国では腐女子全体がゲイに対する意識を保ち続けていると考えられる。

以上によって、本稿のIで立てた仮説：

①中国における「偽腐」という言葉は、単に古参の腐女子がにわか腐女子をののしる言葉というより、現実のゲイに対する腐女子の理解や、現実のゲイに迷惑をかけないような行動の節度を求めるものとして使われているのではないかと考えられる。

また、3つのプラットフォームでの具体的なスレッドを検討する中で、「偽腐」という言葉の広がりによって、「現実のゲイに対する態度を意識し始め、現在では現実のゲイに対する理解者に成長した」というような実例が数多く見られた。したがって、仮説②：

②最初は「にわか腐女子」としてコミュニティに参入しても、古参の腐女子から、現実のゲイに対する考え方やふるまいについて非難され指導されることで、新参者でも現実のゲイに対する態度を意識し始め、やがて現実のゲイに対する理解者に成長するという可能性もあるのではないかと考えられる。

も正しかったと言えよう。

しかし一方で、「偽腐」の乱用により、「完璧な腐女像」が築きあげられ、腐女子であるだけでさまざまな強い縛りがあることへの反発もあった。そのため、不満の声が寄せられるようになり、その定義において、「偽腐」の「ゲイへの無理解」という大前提まで否定するような反発が起きるようになったのも事実である。そうした巻き戻しがあるものの、「偽腐」という言葉は、中国の腐女子がゲイを意識するきっかけになったと言えよう。

けれども、腐女子文化の開拓者たちの中にあつたゲイとの共同性という意識、「ゲイを理解しなければ」という意識は、今も残っているとはいえ、当初よりは薄れており、現在は、同妻問題（中国では子孫を残さなければならないという意識が強いために、ゲイ男性でも結婚するケースが多く、その妻の苦悩が社会問題化している）を筆頭とするゲイへの非難や、フェミニズムの高まりによる男女の対立に伴い、男性に対する反発とともに、ゲイとは一定の距離を距離を置く、という態度も目立ってきている。

本研究では、中国における「偽腐」という言葉の使われ方を考察することで、中国人腐女子の強いゲイ意識を検証し、またなぜこのような特徴があるのかについて探ることができたのではないかと考える。